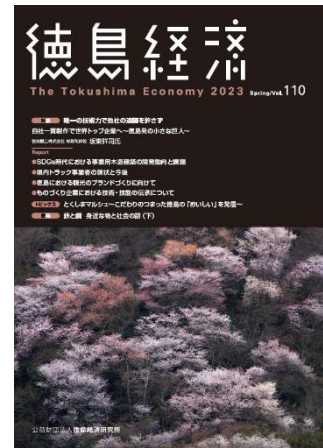


SUMMARY

徳島経済

vol.110【要約版】

このたび、徳島経済研究所は機関誌「徳島経済 vol.110」を発行しました。詳細については、「徳島経済」本誌をご覧ください。



表紙写真
鳴門市堂浦の寒桜

●対 談●

唯一の技術力で他社の追随を許さず自社一貫製作で世界トップ企業へ ～徳島発の小さな巨人～

坂東機工株式会社 専務取締役 坂東詳司氏
公益財団法人徳島経済研究所 理事長 長岡 奨

徳島市で創業し、業界内の先駆けとなるコンセプトで開発を進め、世界シェア 80%を誇るガラス加工機のトップメーカーへと成長した坂東機工。ガラスの特徴を知り尽くし、ノウハウを蓄積している同社は、今でも常にアイデアを出し続け発展している。

重要視している「唯一の技術力」や特色である「自社一貫製作」などを含めた開発エピソード、従業員を大切にしたいなどについてお話をうかがった。

***** ちょっと抜き書き *****

○独自のアイデア・デザインの機械を販売するという点におもしろさがあると思います。業界のリーダー的存在になれているので、お客さまが喜んでくれているのも直接伝わってきますから、モチベーションが上がって、誇りも持てるんじゃないでしょうか。

○毎年1割か2割ずつくらい速くなって、今では7秒になりました。今は業界ではこのサイクルがデファクトスタンダードになっています。サイクルはいつも当社がリードして、競争相手も当然追いついてこようとするので、当社もさらにその先をと開発を発展させています。

○一時サイクル短縮に注力したけど、今度は扱いやすさにシフトした開発をしようかなど、社長がアイデアを出してみんなに方向性を示しています。

○ガラスのマーケット自体はニッチですが、身近なところにガラスはありますよね。朝起きたら必ず見る鏡もガラスですし、窓もそうです。ただ透明できれいなものですから、ガラスの存在は目に留まりません。みんなには、ガラスを見ない日はないくらい身近なものと言っています。当社は人の生活に密着した生活産業であり、存在意義は永遠に変わらないと思っています。

○切断・折割・研磨の3工程を1台で行うというコンセプトでは当社が先駆けです。専門的な話になりますが、各工程が別々だと、位置決めという工程が必ず入るので、誤差が生じたり、配送時

には傷がついたりします。それを排除して精度を上げようというのが当初の目的で、一体化することになりました。過去の工程での欠点をカバーするために、一体化をめざしたということです。

○ブレークスルーするときは、既存のしがらみがあったらなかなかできないと思いますが、社長だからこそ思い切って開発に踏み切れている部分もあったと思いますし、規模では敵わない大手企業をも超えるアイデアが当社にはあると思います。

○これだけ世界の顧客があるのに会社や工場が徳島だけなのは珍しいのか「東京などに本社を移したりする予定はないのですか」とよく聞かれますが、徳島市で創業してここまでできていますので、これからも引き続き徳島で頑張っていきたいと思っています。

● Report 研究員による調査レポート ●

都市部で木造ビルの建設が相次いでいる。木材調達における課題を解決していけば、さらに事業用建築物の木造化は普及するとみられる。各事業者が協力し、木材の生産体制を強化する必要がある。

SDGs 時代における事業用木造建築物の開発動向と課題

(担当 近藤有紀)

大手ゼネコン、住宅メーカー、不動産業者などが木造中高層ビルの開発を進めている。木材は製造・輸送過程での二酸化炭素排出量が少なく、国産材を利用すれば地域への利益還元にも繋がる。短い減価償却期間、工事費用・負担の軽減、高い断熱性による省エネ効果など、木造がコスト面で優位となる事例も出始めており、木造のメリットに着目する建築主も増えつつある。

事業用木造建築物の普及に向けては、「材料調達の難しさ」が課題の一つとなっている。各地域における木の特性の違い、工場の有無など、生産・流通体制の違いによって木材の調達に困難が生じる場合もある。木造の建築規模が拡大することで耐久・耐火性能の高い木材の需要は高まっており、建築主のニーズに合わせた生産体制の強化が求められている。林業・製材業だけでなく、建設業者、流通業者などの事業者が協力し、地域で連携して取り組む必要がある。

トラック業界では「働き方改革」の一環で残業時間などの新たな上限が、2024年4月から適用される。時間規制により、「モノ」が運べなくなる可能性がある。トラック事業者と荷主の間で課題を早期に共有し、対策に取り組む必要がある。

県内トラック事業者の現状と今後

(担当 古泉将利)

- ・トラック事業者の現状をみると、小規模事業者が大半を占めている。運賃交渉は進んでいない。他産業と比べて長い労働時間や低い賃金水準が影響し、労働者の減少や高齢化がみられる。
- ・トラック事業者の増加で生じた過当競争により、運賃の低下や荷主の厳しい輸送条件を受け入れざるを得ない環境、運転者の肉体的な負担などが生じたと考えられる。
- ・将来のさらなる時間規制まで見据えると、従前の輸送形態の維持は難しい。小規模な事業者にも、ビジネスモデルの変化や、経営体力の強化などが求められる。
- ・荷主が従来と同様のサービスを受けることは難しくなる。荷主においても、トラック事業者に対する協力や自社のビジネスモデルを見直す動きが求められる。

観光のブランドづくりに向けては、「どのような地域でありたいか」「どのような来訪客に地域のどのような価値を評価してもらいたいか」を明確にして関係者で認識を合わせることから始める必要がある。

徳島における観光のブランドづくりに向けて

(担当 青木伸太郎)

- ・観光のブランドづくりとは、県外や海外の人々に「行ってみたい」と思わせる「引く力」を強くすることで来訪客を増やし、地域の観光消費を拡大させることである。
- ・観光のブランド力には「明確なイメージ」が最も影響を与える。外と内の双方の視点から、「どのような来訪客に地域のどのような価値を評価してもらいたいか」を明確にする必要がある。
- ・先進地域は、観光立国推進基本法で最も重要な取り組みに位置付けられる「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりに取り組んでいる。地域の人々から賛同を得て関与を促す取り組みを続けることが重要である。

技術・技能伝承に取り組む企業は多いが、「暗黙知の形式化」など高いレベルの伝承は少ない。「働きがい」の向上にもつながることから、社会全体でしっかりと取り組むべきである。

ものづくり企業における技術・技能の伝承について

(担当 蔭西義輝)

- ・「技術」とは、技の根拠・原理・仕組みのこと。「技能」とは、技がよくできることであり、言葉・動作・運動・加減・調整・手腕・目視・判断・推理・考え方などを含む。「暗黙知」は、これらに深く関連している。
- ・暗黙知が「組織が行う技能」として伝承される「伝承智」となり、移植・増殖されることを標準化したスタイルである「メソッド」にまで昇華させることが求められる。
- ・わが国における技能継承(伝承)の実態をみると、退職者を再雇用して活用などの「人の手当」にとどまっていることが多く、暗黙知の形式化や伝承智につながる「高いレベルの継承」の取り組みは少ない。
- ・県内における具体的な事例として、ヨコタコーポレーションとマツシマ林工グループでの取り組みを紹介した。
- ・技術・技能伝承は、企業が生み出し扱う製品・商品・サービスの品質を長く維持するだけでなく、「働きがい」の向上にもつながる。関係する経済主体では、直接的な働きかけやノウハウ・サービスの提供に加え、「働き方改革」を大きく推進させる環境づくりも必要である。

●トピックス●

◆とくしまマルシェ～こだわりのつまった徳島の「おいしい」を発信～◆ (担当 佐々木志保)

毎月最終日曜日に行われる「とくしまマルシェ」は、2022年12月に12周年を迎えた。最大の特徴は、運営を担う株式会社ネオビエントの事務局スタッフがこだわりを持った生産者のもとへ足を運び、商品を吟味、選定基準に沿って審査し、出店を依頼するという「逆指名制」の採用である。徳島産でストーリーや想いのつまった、おいしい商品を届けたいという高い志のもと、県内各地で生産者の発掘を行っている。また、SDGs 啓蒙活動やラシクルモールとの連携などにも積極的に取り組んでいる。

とくしまマルシェは、出店者や事務局はもちろん、マルシェの趣旨に賛同し生産者のファンとなった来場者で発展させてきた。今後も多くの方に愛され、それぞれの協力のもと発展し、徳島の魅力を県内外に発信していく存在であり続けてほしい。15周年に向けて、徳島の貴重な資源としてさらに発展していくことを期待している。

●寄稿●

◆鉄と鋼 身近な物と社会の話(下)◆

(技術顧問・工学博士 西池氏裕氏)

鉄と鋼の技術として特徴的な日本刀を事例に、鋼を鍛える工程、ステンレス鋼、自動車用鋼板、ケイ素鋼板、電磁鋼板等の技術を紹介している。こうした鉄鋼産業の技術は、モノづくりの一つの典型である。

現代社会の駆動力になっている技術は情報技術であるが、情報技術の土台となっているのは鉄鋼産業のようなモノづくり技術である。モノに接し働きかけることなしには、人間の情報は真の意味で豊かにはならない。近い将来においても、モノづくりの新たな展開がなされないと、人間は経済的にも精神的にも真の豊かさを失っていくこととなる。

公益財団法人 徳島経済研究所

TEL (088) 652-7181 / FAX (088) 625-3818
当研究所 HP(<https://www.teri.or.jp/>)で全ページ閲覧できます。
冊子をご入用の方はご連絡ください。

今後の発行物の内容充実に役立てるため、
読者アンケートを実施しております。
下記 QR コードからご協力をお願いいたします。

